

蕨市立病院運営審議会 会議録

【日 時】 令和 7 年 2 月 13 日（木）午後 2 時～午後 3 時 45 分

【会 場】 蕨市立病院 4 階 会議室

【出 席 者】 （敬称略）

出席委員 大石圭子(会長)、小山祐康(会長代理)、川南勝彦、原澤茂、宮下奈美、
矢嶋聡子、飯田努、横田秀雄

頼高英雄(開設者蕨市長)、鷺見禎仁(蕨市立病院長)、桑原文子(同医務局看護部長)

事務局 田谷信行(事務局長)、小川淳治(同次長兼庶務課長)、
堀田義信(同庶務課長補佐)、白畑多加江(同庶務課地域医療連携担当係長)
小峰聖仁(同庶務課医事係長)、津元朋子(同庶務課庶務経理係長)
元井純(同庶務課管理係長)、助石菜穂子(同庶務課主査)

【内 容】

1. 市長挨拶

2. 議題

- (1) 会長・会長代理の選任について
- (2) 令和 6 年度上半期中間決算等の概要について
- (3) 蕨市立病院整備基本構想・基本計画（案）について
- (4) 国民健康保険診療施設(国保直診)の適用について
- (5) その他

配布資料

- 資料 1 蕨市立病院運営審議会委員名簿
- 資料 2－1 令和 6 年度上半期（業務量）
- 資料 2－2 令和 6 年度上半期中間決算
- 資料 2－3 令和 5 年度決算概要
- 資料 3 蕨市立病院整備基本構想・基本計画（案）概要
- 資料 4 国民健康保険診療施設（国保直診）の適用について
- 資料 5 安定経営に向けた取り組み

【会議の概要】

1. 開会（事務局）

2. 市長挨拶（市長）

【市長】皆さんこんにちは。蕨市長の頼高英雄でございます。本日は、蕨市立病院運営審議会にご参加いただきありがとうございます。また、日ごろから市立病院の運営に大変ご尽力いただいておりますことに御礼申し上げます。さて、市立病院にとっては大変大きな課題である建替え事業を進めさせていただいております。昨年 3 月に正式に移転建替え方針を掲げさせていただきまして、今年度に入ってから基本構想・基本計画の策定作業を進めております。年度がスタートして、市民の皆さんへのアンケートを実施させていただくとともに、市立病院整備検討審議会においてこの計画についてご審議いただいております。そして、1 月 23 日にお示しした基本構想・基本計画の案については、おおむね審議会の意見を反映して作られ、妥当であろうという答申と併せて、審議会に出された貴重なご意見もいただきました。そこで、案について、2 月 7 日から 27 日まで広く市民の皆さんの意見を伺うパブリックコメントを実施しており、さらに、直接市民の皆さんにご説明してご意見を伺う機会として、昨日、駅前の文化ホールくるで説明会を開催させていただきました。説明会には 72 名の皆さんにご参加いただき、基本構想・基本計画案の概要について、7 名の方からご質問やご意見をいただき、それぞれお答えをさせていただきました。

今後はこうした審議会でご頂いたご意見、昨日のご意見、パブリックコメントで寄せられたご意見などを踏まえながら、基本構想・基本計画については、今年度中に策定をさせていただき、新年度については、いよいよ基本設計に着手していきたいと考えております。市立病院の建替事業は蕨市にとってたいへん大きな事業であります。市民の皆さんが安心してこれからも住み続けられるまちづくりを進めていく上でも、あるいは今、人口減少社会になっている中で選ばれるまちづくりを進めていく上でも、大変重要な課題だと考えております。特に今、建設費の高騰等、大変厳しい条件もございますが、建設に向けた基金というもの令和 4 年度に作って、4 年度に 10 億、5 年度に 10 億、本年度もこれから始まる補正予算で 10 億を積み立てて、まずは 30 億にすることを予定しておりますけれども、こうした財政面も含めて、来年度は基本設計でローコストも目指しながら、厳しい状況もありますが、この建替え事業を皆様のご協力をいただきながら進めていければと考えております。

もう一点、新病院の完成までには一定年数かかるわけですが、この事業を進めていく上で、やはり病院の安定経営が非常に重要です。今日は上半期の中間決算等の概要報告などありますが、率直に言って、コロナ禍以降全国的にも厳しい状況であり、市立病院においても大変厳しい状況もございます。一生懸命頑張っているわけですが、安定経営に向けた更なる取り組みが必要となる中で、その取り組みについても後ほど報告があるのではないかと思います。自治体病院は不採算部門も担っていくという社会的使命もあります。その分、一般会計から病院会計に一定の財政的な負担をしていく繰出基準というものがございまして、こ

れまで蕨においては病院自身の努力もあって、繰出基準で計算すると 4 億数千万円のところ、2 億 5 千万円の負担金で運営をしてきているわけですが、昨今の厳しい状況も踏まえて、経営基盤を安定化させていくということで、繰出基準の範囲内ではありますけれども、令和 6 年度、これから始まる議会にも補正予算案でさらに追加で支援をすると、新年度についても、当初から 4 億 6 千万円ほどの繰り出しもしながら、もちろん安定経営に向けた取り組みにさらに力も入れ、安定的な運営をし、同時に建替え事業も進めていければというふうに思っております。こうした当面の運営と建替え事業と 2 つの大きな課題を抱えていくことになっていきますけれども、市民の期待に応えるべくしっかり取り組んでいければと思っておりますので、委員の皆様の引き続きのお力添えをお願い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

3. 議題

(1) 会長の選任について

資料 1 蕨市立病院運営審議会委員名簿

会長の選任に先立ち、各委員から自己紹介があった。

その後、推薦により会長に大石委員、会長代理に小山委員が選任された。

(2) 令和 6 年度上半期中間決算等の概要について

上記のことについて、事務局から説明した。

資料 2－1 令和 6 年度上半期（業務量）

資料 2－2 令和 6 年度上半期中間決算

資料 2－3 令和 5 年度決算概要

説明後、次のとおり質疑応答が行われた。

【委員】上半期の外来の患者数と入院の患者数が減った理由はコロナ・インフルということだが、内科系の患者がかなり減少しているがその理由は。

【事務局】コロナやインフル等の感染症の関係が大きい理由と認識している。また、産婦人科で分娩件数の減少に伴う妊婦健診の減少など、例えば、分娩件数が 1 件減ると 12、3 回分の健診が減少するといったところも外来患者数の減少理由と考えている。

【委員】繰り返しになるが、減少の原因分析はどうか。

【事務局】分析は毎月しており、透析患者が減少していることなどもある。

【院長】病院の建物、機器、医療従事者の魅力がないのではないかとというのが避けられない理由ではないかと考えている。

【委員】例えば産婦人科のドクターが減少したとか具体的な理由はないか。

【院長】産科の医師は減ってはいないが、定年退職した者を延長で雇用しているので、そういった面で人的なリフレッシュ感はない。

【委員】院長が先ほど述べたことに尽きると私も考える。事務方はそういったところをもう少し把握したほうがよい。

【委員】去年の6月に診療報酬が改定になったことで、内科が受ける影響が大きい。そういったことが収益減少の原因になるのか。

【事務局】コロナの検査は改定前は300点であったが、改定後は150点と半分になったことや、コロナの特例、外来であれば院内トリアージ加算がなくなったことも影響している。また、薬価が全体的に下がり収益的に落ち込んだところがある。

【事務局】内科の減について、医師の減少はないが、内科においては、午後に呼吸器内科の特別診察を行っているが、医師が5年度と6年度で変更になっており、6年4月からの新しい医師になってから、呼吸器の患者数が減っている傾向もある。また、泌尿器科の特別診察も行っているが、こちらも医師の変更に伴って若干患者数の減少傾向が見られている。

【委員】分析のところで、コロナの影響があるということであれば、内科、外来、入院とそれぞれコロナ前の平均患者数と比較した分析はどうか。その平均を比べることでもう少し原因にせまれるのではないか。

【院長】令和元年度の運営状況としては悪くなかった。そこからコロナを経て、同規模の病院としては下降傾向にあり、コロナがあけてからも芳しくない。分析はしているので比較はできると思う。

【会長】患者の内訳として市内の方、市外の方、傾向が分かれば。

【局長】正確ではないが、市内の方が増えている傾向にある。1度調べたときには、6割以上は市内の方であった。

【会長】それはコロナの延長でということか。

【局長】いえ、そうではない感じであった。

(3) 蕨市立病院整備基本構想・基本計画（案）について

上記のことについて、事務局から説明した。

資料3 蕨市立病院整備基本構想・基本計画（案）概要

説明後、次のとおり質疑応答が行われた。

【委員】基本理念、基本方針という基本的な考え方を含めて非常に盛りだくさんの内容になっている。1点気になるのが、最後の事業スケジュールと概算事業費のところで、医療機器を除く 67 億円という事業費が妥当かどうかということについては審議会でも議論があった。坪 230 万円程度という概算で出しているようだが、坪 300 万円を超えている現状もある。30 億円の基金の話もあったが、この事業費では収まらないのではないかという点について市長にお伺いしたい。建築に入る 2 年後の物価の動向によるところもあるかと思うが、どうか。

【市長】審議会でも説明はあったと思うが、事業費の設定にあたっては、近年の建設の価格、3 例の平均が平米 70.4 万円程度であった。基本計画の事業費は設計と建設で、医療機器を含んでおらず、刻々と物価高騰の傾向があるということも承知している。新年度実施する基本設計のなかで、ローコスト化を目指すというのは大変大きなテーマであり、合理的な配置による床面積の抑制をはじめ、いろいろな努力を最大限やっていこうと思っている。そのうえで、基本設計を通じて一定の概算工事費が示されると思うので、現在の金額が最終的な数字だとは私も思っていない。また、基本的な建設費用の調達については、先ほど基金の話をしたが、今年が 3 年目で毎年 10 億円を積み立てており、今年度末に 30 億円にしようとしているが、これで充分とは考えていない。実際には建設費の多くは起債で賄っていくことになり、自治体が起債をする場合には、もちろん資金の調達という面もあるが、公共的な建物というのは、今いる市民だけではなくて将来の市民もその恩恵にあずかるので、病院のように長期に使う施設についてはなるべく長い償還期間で将来の市民にも負担をしていただくという考え方がある。病院の起債分には、25%、4 分の 1 の交付税措置を受けられるという措置もあり、更に災害対応のためであれば更に手厚い措置が受けられる等いろいろな仕組みを最大限活用して、建設費のローコスト化と資金の調達を図りたい。厳しい環境であり、建設に何とか対応できるように設計に臨んでいきたいが、建築費について増額はあり得るということは承知している。

【委員】審議会ではいろいろと議論されたことは、ほとんどが病院の外での議論であった。基本構想・基本計画について、院内ではどのように周知し、提案等があるのかお聞きしたい。

【局長】一昨年、移転建替えが決定したときには、正直、自分たちの病院が建てられるという実感がわいてこなかったのではないかなと思っている。審議会と並行して、各部門にも建替えの考え方を示してヒアリングを実施し、様々な意見を伺い、まとめさせていただいた。進

捗に関してはその都度、管理会議の中で報告してきており、先月の答申についても報告した。そうしたことから、ようやく実感とともに、建替えに向けて一步前進した思いを職員も持っていると思うし、建替えのためにも経営面でも頑張っていこうという共有はできていると思っている。

【委員】設計等と工事請負契約を別々にして発注ということだが、それだけお金がかかるのではない。特定の建設会社だけで行えば予算を圧縮できると思うがどうか。

【事務局】事業方式については、設計・施工分離発注方式以外にも、DB方式、ECI方式、PFI方式がある。以前はDB方式、ECI方式を活用すると工事期間の短縮や事業費の圧縮ができるとされていたが、現在、全体的な建設コストが上がっている中では、そのメリットが得られにくいということであり、これは事業方式を検討するに当たってヒアリングを行った設計会社、建設会社いずれも同じような回答であった。また、移転場所が平らな土地であり、工事の難易度が高くないということから、建設会社の技術等が無くとも、設計会社で設計して、建設会社が建てるという方式で問題ないと考えている。

【委員】費用が下がるわけではないのか。

【事務局】以前ほどメリットが感じられないのではないかとということであった。

【会長】私から4点質問する。1点目は、市内の開業医との連携や民業圧迫についてどのように考えているのか。2点目は、今後、地域医療連携室の重要性が更に高まると思うが、部門の充実についての見解はどうか。3点目は、外国人の割合が高い蕨市において、今の状況でも一生懸命やっていたいただいていることは理解しているが、外国人への対応をどのように拡大していくのか。最後に、交通アクセスについて、バス路線の充実などを検討し、塚越や南町から行きやすいようになる可能性はあるのか。

【局長】市内の開業医の先生とは、現在も連携をして運営をしている状況であり、基本的には圧迫というようなことではなく、連携しながら経営していくことが重要だと思っている。2点目の地域医療連携担当が非常に重要になってくことは、当院として認識しており、地域包括ケア病床の確保という点でも、退院支援等において非常に重要視されてくと思っている。また、クリニックや大きな病院からの紹介についても、専門的な診療情報などを聞く看護師の充実も非常に大事であるため、入退院支援センターのような、連携事務を組み入れた形での充実を考えている。次に、外国人の方について、当院では、中国語の通訳を配置しており、受付での診療案内とあわせて、診療中の通訳も対応している。費用は診療報酬で対応できるというのだが、現状は自由診療として1,500円頂いている。一番の課題は職員の確保であるが、通訳の充実は外国人対応としていいのではないかと考えている。また、外国人対応としてではなく、表記や予約方法をわかりやすくするなどといったことは、総合的に

考えていく必要がある。次にアクセスについては、ぷらっとわらびについて担当課で検討しているので、塚越や南町の方にもお越しいただけるようにしたい。

（４）国民健康保険診療施設（国保直診）の適用について

上記のことについて、事務局から説明した。

資料４ 国民健康保険診療施設（国保直診）の適用について

説明後、次のとおり質疑応答が行われた。

【委員】国保直診となることで、診療行為に変更や制限がでるのか。財政面について、予算決算に影響があるのか。

【事務局】診療内容について全く変更はない。国民健康保険の人しかかかれないということではなく、病院の名称にも変更はない。保険事業についてこれまでよりも強化していくものとなり、幅が広がっていくものだと考えている。財政面については、助成金が出る場合には、国民健康保険特別会計を通して、病院事業会計に繰り出すこととなるが、会計上の処理であり、国民健康保険から病院の運営に対して負担をするということはない。

【委員】国保直診の病院ということで、デメリットはなく、メリットがある中で続けていけるという認識でよいのか。例えば、今後新しい病院になる際に、看板等に国保直診であることを表記しなくてもよいのか。

【事務局】名称含めてあり方については変更はないものと考えている。

【委員】なぜこのタイミングなのか教えてほしい。国保直診ということで補助金をもらえるとのことであるが、先ほどの市長の説明であれば国からの交付税措置はいずれにしてもあるのではないのか。直診になることで、何か増えるメリットがあるのか。

【事務局】先ほどの説明は、起債に関して一部が交付税措置されるというものであり、助成金は、この部分に関しては10分の10、全額となるので、助成金のほうが恩恵は大きいものとなる。タイミングについて、今回の検討するきっかけとなったのは、今の経営強化プランの前の経営改革プランで外部評価員をしていただいた先生に、国の医療施策の動向を踏まえた地域包括ケアと、今後の蕨市立病院が目指していくところを考えて、以前、蕨市立病院が国保直診だったということもあるので、原点に帰るということで国保直診を検討してはどうかというご助言をいただき、調べ始めたということである。

【委員】埼玉県には病院数が300以上あり、もちろん民間の病院も含めた数だが、国保直診、皆さん手を挙げると思うが、蕨市立病院がなぜ今なのか疑問がある。

【事務局】前提として、国保直診は国民健康保険の保険者として設置する施設ということになるので、基本的には市町村が運営する公立病院が対象となる。県内の公立病院ということであると限られているので、その中で現在２つの病院がなっている状況である。

【委員】国保直診の医療施設の具体的な事例として、こういったところが良いということを知っていて教えてほしい。

【事務局】県内２つの病院に話を伺ったが、以前から国保直診であるので、特筆するようなことや国保直診だから何かしているというような具体的なお話は伺えなかった。ただし、いずれも助成金は受けられているので、そこが一番わかりやすいメリットではあるとのことであった。

【局長】補足させていただくと、国保直診を掲げて経営的な部分でも回復されたという事例もある。

【市長】説明のとおりであるが、今回の建替え等においても、市立病院の運営上、あらゆる角度から検討してきている。その中で国保直診について、メリットとデメリットがある場合はいろいろな検討が必要になり、例えば施設名の変更等があると一般の人がかかれないのではないかという印象を持たれるかもしれないということも考えられるが、現在はそういうことはない。保険者である蔵市の保険事業に資する事業ということでも既に協力している状況であり、今後の方向としても今担っていることと重なっているということを考えると、先ほど質問もあったが、プラスしかないと考えられる。しかもこれから検討する、電子カルテの導入に対しても直接的な補助制度があり、自治体病院への国の補助というのはあまりない中で、非常に貴重なものであり、総合的に検討して一歩踏み出していきたいと考えている。

【会長】今回の件は良い提案だと思うが、外部評価員という方は何人もいるのか。

【院長】経営改革プランの外部評価員は２人であり、評価員を招いての会議は、コロナ禍において書面開催となっていたが、その中で今回の意見を頂いた。

(5) その他

資料5 安定経営に向けた取り組み

上記のことについて、事務局から説明した。

説明後、次のとおり質疑応答が行われた。

【委員】DPC 病院か出来高算定か確認したい。また、将来 DPC になることはないのかということと、調整会議で 30 床を地域包括ケアにする目標を掲げて承認されたと思うが、病床のあり方で 8 床しかできないという理解でいいのか。

【事務局】DPC に関して、現状は出来高算定としていて今後も継続していく。地域包括ケアについては、新病院では 30 床を掲げているが、面積要件の 1 床当たり 6.4 平米というところで、現病院の多床室だとそれが叶わないこともあり、対応可能な病室において先行して 8 床行うということである。最終的に新病院を開設した時点で 30 床確保していければと考えている。

【委員】30 床も変動する可能性があるかと理解してよろしいか。

【事務局】そのとおりである。必ず 30 床とは限らない。

【事務局】安定経営に向けた取り組みの補足だが、議題の(2)で上半期の経営状況を説明した中で、12 月から病院の意識改革という点で、建替えの方向性など職員向けに周知したこともあり、入院の利用率が上がってきている状況がある。上半期では入院における病床利用率が 58%程度であったが、1 月は 67.3%程度に上がってきている。また、直近の 2 月は現状で 77.5%と利用率が上がっている状況で、特に 5 階の内科病棟では 81%程度の稼働状況となっている。また、3 階の混合病棟、主に整形外科と一部内科が入っているが、こちらでも 79.2%程度の利用となっており、安定経営に向けて伸びているような状況である。このままこの状況を維持していきたいと考えている。

【院長】病床利用率は 8 割や 9 割と高い方がいいが、看護師の配置の関係で、現実的には、5 階病棟が 45 人、3 階病棟は 35 人、2 階病棟が 20 人の合計 100 人程度が患者の受入れ上限である。当院は 130 床なので 7 割台となるが、外から見ると「7 割では足りないのではないか？」となるが、実際は 7 割入院で満床というのが現実である。現状では内科病棟や混合病棟はいっぱい、産科病棟は空いているというふうに理解してもらえるとよいと考える。

【委員】病院によって人員配置など事情は違うと考えるので理解できる。また、年末年始はどの病院もいっぱい、逆に言うと、どの病院もいっぱいなので蕨市立病院に流れていると理解している。また、ジェネリックについては 50%~72%くらい、出来高算定で院内薬局ということだが、新病院でも同様であるか。

【院長】ジェネリックについては、現状は院内処方という中で、比率を上げていくのは大変だったがやっとここまでになった。今後の薬局の在り方に関しては、院外というのが一般的と考えるが、患者サービスとして院内薬局を望む声もあるのでそこは検討する。

【委員】成人健診センターは保健センターから全て新病院の中に移るのか

【局長】現在健診センターで行っている健診は全て市立病院が受託して行っているが、新病院に移転後、スタッフが保健センターに来るのは難しい。今の健診センターの機能を新病院に移し、加えて、少しでも拡充していこうと考える。

【委員】地域連携について、開業医としても市立病院に紹介をしているが、実際に連携を通した紹介患者数は増えているか。また、その経過が知りたいが集計は取っているか。

【事務局】紹介の集計は取っており、希望があれば開示可能である。

【委員】毎月、市立病院から外来勤務表が送られてくるが、例えば、先ほど説明があった整形外科の救急受入などの情報はわからないので、こういった情報や、各診療科でこの病気に対してこういう治療をしているとか、時々アピールしてもらえると紹介しやすくなると思う。また、検査件数を増やすなどの目標があれば、例えばCTとかMRIの空き情報があれば参考になる。患者さん自身が市立病院で検査ができることを理解することも重要だと思う。

【院長】医師の体制によって、以前行っていた治療に対応できなくなることもあるので、連携担当に問い合わせていただきたい。超音波とCT、MRIなどの機器や、診療科では皮膚科や乳腺、眼科などに大学から医師が診療に来ているので、活用していただきたい。

【事務局】ご意見を踏まえ、連携担当としても各医療機関を積極的に訪問していきたいと考えている。

【委員】スタッフが少ない状況だと、やりたくてもできないこともあると思う。そこで紹介して迷惑をかけてしまうと悪いと思うこともある。

【院長】例えば転院も視野に入れてのワンクッションにしてほしいというような依頼であれば、速やかに対応できると思う。

【看護部長】新病院に向けて、基本構想・基本計画など、管理者はある程度理解しているが、スタッフまでは行き届かない部分があると思う。私も昨日の説明会に出席したが、市民の方々の声がとてもよくわかったので行ってよかったと思った。毎朝ミーティングをしているが、そのときにそこで出た市民の方々の意見や基本方針を伝えて、それが他のスタッフに

も伝わるように周知していきたい。新病院に向けて、看護科も一丸となって頑張っていきたいと思うので今後もアドバイスをお願いしたい。

【事務局】本日欠席の委員より、当院が嘱託医をしている特別養護老人ホームから救急要請があった際には、できる限り受け入れをお願いしたいというご意見を事前にいただいている。

【院長】サンクチュアリ、いきいきタウン蕨へは嘱託医として日常的に診療している。救急対応含めて、死亡確認などもこちらから出向いている。

【委員】昨日の説明会で7名の方が質問したということだが、特別な内容の質問があったのか。新しい質問や要望等があったのか。

【市長】市民の方々からいろいろな質問があったが、基本構想・基本計画に関わっては、新病院への期待が大きいものであった。質問内容については、コンビニであるとか、都内の大きな病院に行ったときにこういうことがよかったであるとか、健診もやるのであれば一般患者との動線をわけることが大事ではないかなど、そういうお話から、跡地の用途や建設費高騰を心配する声もあった。説明会に来ていただいて、質問や意見を言うということはなかなか大変なことであり、ありがたいと思っている。新病院については、関心も高く、今病院にかかっている市民の方のみならず、蕨市にとって大変大きな事業である。市民のみなさんに情報提供するとともに、病院スタッフの理解も、改めて大事だと感じている。

【会長】以上をもって、本日の市立病院運営審議会を終了とする。

(閉会)